

所属：生物資源学部・生物資源学研究科 生物圏生命科学専攻

教授 河村 功一 (かわむら こういち)

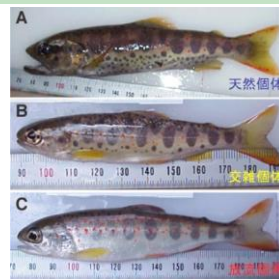
カテゴリ) バイオテクノロジー、環境・エネルギー、農林水産(含食品)

《一言アピール》 遺伝情報と野外調査の結果をもとに、生物の多様性(生態、形態、行動)の謎と歴史(進化)を明らかにしていきたいと思っています。

## 研究テーマ

## Research Themes

- 外来種と在来種の間で生じる遺伝的攪乱のメカニズムの解明 (バラタナゴ、スッポン)
- 種苗放流が野生集団に与える遺伝・形態的影響について(アマゴ)
- 遺伝的アプローチによる外来種の定着のメカニズムの解明 (ヌートリア、ブルーギル)
- 有用形質と連鎖した分子マーカーの探索(アコヤガイ)
- 遺伝情報に基づく生物の歴史の推定 (タナゴ、カキ、ヨシノボリ、メバル)



外部からの個体の持ち込みは、 → 在来種の特徴を大きく変える事がある。

(写真は、和歌山県古座川産アマゴ) (三重大学全学シーズ集HPより)

### 応用分野

- 環境問題、特に自然保護関係

### 主な保有機器・装置

- サーマルサイクラー
- ミクロトーム
- 蛍光顕微鏡
- フローサイトメーター

### 所属学会

- 日本魚類学会
- 日本水産学会
- 日本哺乳類学会
- 日本生態学会
- 日本動物学会
- 水産育種研究会

### 主な保有技術

- 遺伝情報を用いた生物の集団解析
- 魚類の比較解剖
- 魚類の生態調査手法

### 調査

- 資源管理を目的としたアマゴの生息実態調査
- ウシモツゴの棲息調査
- 琵琶湖産コイ科魚類の移植の実態の解明

### 受賞

- 日本生態学会論文賞(2008)

### 論文

- Kawamura K et al. Effects of stocking hatchery fish on the phenotype of indigenous populations in the amago salmon *Oncorhynchus masou ishikawae* in Japan. *Journal of Fish Biology* 81, 94-109. (2012)
- Kawamura K et al. The role of propagule pressure in the invasion success of bluegill sunfish, *Lepomis macrochirus*, in Japan. *Molecular Ecology* 19, 5371-5388. (2010)

ほか

### 著書

- 河村功一：遺伝子浸透 - 遺伝的乗っ取りのメカニズム. 西川・宮下(編), pp.2-22. 外来生物- 生物多様性と人間社会への影響-. 裳華房, 東京. (2011)
- 河村功一：イタセンパラとは - その起源と特徴. 渡辺・前畑(編), pp.8-25. 絶体絶命の淡水魚イタセンパラ - 希少種と川の再生に向けて. 東海大学出版会, 東京. (2011)

### 社会活動

- 日本魚類学会評議員
- 水産育種編集員
- 環境省絶滅のおそれのある野生生物種の選定・評価検討会淡水魚部会検討員
- イタセンパラ生息域外保全検討委員会委員

### 関連ホームページ

- 三重大学生物資源学部水圏資源生物学 <http://www.bio.mie-u.ac.jp/seimei/suiken/sigsei/>
- 三重大学生物資源学部研究室データベース <http://www.bio.mie-u.ac.jp/ldb/info.php?id=54>
- 三重大学教員紹介 <http://kyoin.mie-u.ac.jp/profile/1139.html>

☆詳細は、HPをご覧ください。